

【学校教育目標】「進んで学び 共に世界で生きる子」

1 令和7年度の取り組み

合言葉	にこにこ えがおで なかよくします
子供像	相手を思いやり誰もが気持ちよく過ごせるよう行動する子
指導の重点	(1)よい人間関係を築くための言葉を適切に使える。 (2)自分たちの生活は、自分たちでよりよくなる。

しっかり かかわり かんがえます
人・もの・ことのかかわりから進んで学ぶ子
(1)学ぶ意義を知る。 (2)自分の考えをもってかかわる。 (3)かかわりを通して高まった自分に気付く。

のびのび げんきに かつどうします
自分の心と体を知り、健康・安全に気を付け、自己の向上を目指して活動する子
(1)体を動かす楽しさを味わい進んで運動に取り組む。 (2)けがや病気の無い、健康で安全な生活をする。 (3)自分の心と向き合い、自己の理解を深める。

こつこつ ねばりづよく とりくみます
自分の思いや考えを持ち粘り強く頑張る子
(1)「何をしたいのか」「どうなりたいのか」という自分の思いを見つめ、その達成のために取り組む。

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
時や場を考慮して温かい言葉づかいをしている。	90.0%	89.1%	89.5%
自分の仕事ややるべきことを精一杯行っている。	93.6%	91.4%	100%
安心して学校に通い、楽しい学校生活を送っている。	94.6%	93.8%	100%
みんなが気持ちよく過ごせるように、相手の気持ちを考えて行動している。	91.9%	91.3%	89.5%
自分の生活をよりよくするために、できることを考えたり、行動したりしている。	91.3%	83.0%	78.9%

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
よりよい自分になるために、進んで学習に取り組んでいる。	93.4%	77.4%	100%
タブレットを使った学習は、分かりやすい。	90.3%	90.7%	84.3%
タブレットを活用して学習をすると、自分の考えが広がったり深まったりする。	87.0%	85.4%	84.3%
友達と協力して物事を行うことは、楽しい。	96.1%	94.8%	100%
地域の方や外部の方から話を聞いたり、教えてもらったりすると学習がよく分かる。	92.8%	94.2%	100%

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
体を動かす楽しさを味わい、進んで運動に取り組んでいる。	92.5%	84.9%	100%
事故やけが、病気に気をつけて健康で安全な生活をしている。	94.9%	94.4%	84.3%

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
むずかしいことでもあきらめずねばり強く取り組んでいる。	90.4%	75.9%	78.9%
夢やめあてに向かって努力をしている。	92.1%	79.9%	94.7%
教師はお子さんががんばると褒めたり励ましたりしている。	92.7%	93.2%	94.7%

子供のじまん「3つのきれい」に対する評価

	児童	保護者	職員
「きれいな心」を意識し自分から進んで気持ちのよいあいさつをしている。	91.9%	83.5%	94.8%
「きれいな歌声」を意識し自分や友達の声を聞いてきれいな声で歌っている。	94.9%	92.2%	94.8%
「きれいな学校」を意識しそうじや整理整頓をして身の回りの環境を整えている。	94.0%	84.5%	84.2%

学校運営協議会による学校関係者評価

・いじめに対して、学校できめ細やかに対応していることは評価できる。しかし、児童の実態と職員の把握に相違がある場合もあり、不安もある。改善策に挙げた職員への周知以外にも対応策があればさらに行ってほしい。
 ・どんなことが地域貢献につながるかわからない児童が多いため、地域のためになることを具体的に示してあげられるとよい。
 ・児童に体を動かす楽しさや心地よさをより実感させることが運動や外遊びの習慣化につながるのではないかと。
 ・成果を認め、褒めることが児童を伸ばすことにつながる。機を捉えて褒め、児童には大きな自信を付けてほしい。
 ・方策の見直しや強化等の熟議に生かすことができるよう、取り組んだ改善方策への評価、ふり返りの提示があるとよい。

今後の改善方策

・目標設定や振り返りを定期的実施し、生活をよくしようとする意識を高めていく。
 ・学級の裁量で行っていたいじめアンケートの聞き取りについて時間を設定し、十分な時間を確保する。
 ・いじめに関連した児童情報について、打合せ等を利用し、できるだけ早く関係職員、支援員に伝え、全職員で声掛けができる体制を整える。
 ・進んで学習に取り組むことができるように、「子供が自ら課題解決するための学び方を選択できる単元構想」をテーマに学年団で研修を進め、授業改善を行う。
 ・児童が地域や社会とのつながりを実感できるよう、地域人材を活用したり、外部講師を招いたりして、専門知識や経験を児童に伝える機会を設ける。
 ・カードを活用した縄跳びや持久走などの運動の習慣化を図り、体力の向上に努めていく。

児童・保護者・職員の意見

○よいところ

- ・素直で明るい子が多いところ。
- ・1年生から英語の授業があり、英語活動に力を入れているところ。
- ・上級生が下級生の面倒をしっかり見ていて、みんな仲がよいところ。
- ・縦割り活動を通して、他学年との交流があるところ。
- ・ホームページに学校の様子が載っていて、保護者が学校の様子を共有できること。
- ・地域と学校との距離が近く感じるところ。
- ・学校全体で子供たちを見ているという温かい雰囲気があるところ。

○今後実践するとよいこと

- ・学校生活を通して、児童が自ら考え行動する機会を設ける。
- ・異学年が交流したり、児童自ら企画・運営したりするイベントを実施する。
- ・地域の人や活動に関わる機会や地元についてもっと学べる機会を設定する。
- ・様々な職業の話など外部の方の講話を聞く時間を増やす。

<分析・考察>

全体的に高評価の項目が多いことから、児童が安心感をもって生活していることや自分を肯定的に感じている児童が多いことが分かる。今後も一人一人のよさを認め、家庭・地域・学校と連携を図って教育活動を進めていきたい。

全国学力学習状況調査は、国語・算数・理科の平均正答率が、いずれも全国平均及び静岡県平均、浜松市平均を大きく上回り、基本的な学力が定着していると言える。これは、授業や家庭学習を通して、児童が主体的に学習に取り組める環境作りにより継続して取り組んできている結果と言える。

㊦・「自分の生活をよりよくするために、できることを考えたり、行動したりしている」についての評価が昨年度と比較すると低下傾向にある。学習や行事の中でめあてや目標を立て、定期的に振り返る時間を設けることで、児童の主体性を育てていきたい。いじめに関することとしては、本校のいじめ防止基本方針の基、学校全体でいじめの未然防止に努めている。具体的には、学期に1回のいじめアンケートを基に、いじめの早期発見、早期対応ができるようにしている。そしてアンケートに書かれた内容について一人一人と面談を行い、継続的に見守っていくようにしている。その際、職員間の情報共有に時間がかかる場合があった。

㊧・「よりよい自分になるために、進んで学習に取り組んでいる」についての評価が児童、保護者、職員で差が見られた。また、全国学力学習状況調査の児童質問紙（意識調査）の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について肯定的に答えた児童の割合が全国平均を大きく下回った。学習している内容や活動がどのように社会に関わっていくかというイメージがもてるように、学習の導入やまとめで、社会とのつながりを意識した活動や話を通して学ぶ意欲やよさを生かしていこうとする意欲を高められるようにしていきたい。

㊨・運動会や新体力テスト、カードを活用した縄跳び、持久走など目標に向かって運動に取り組む児童が多い。持久走週間には、カード達成を目標に何十週もグラウンドを走る児童の姿が見られた。また、体力テストの結果は、前年度の同一学年と比較すると持久走、走力、跳躍力に課題が見られた。

㊩・夢や目標をもちながらも困難に対してあきらめずに粘り強く取り組む力が弱い傾向が見られる。学習や生活の目標を自分で決定する機会を設け、それに向かって努力したことを認め、価値付けを行っていきたい。

㊪・挨拶、歌声、清掃の3つを意識することが、落ち着いたのびやかな生活につながり、児童にとって西小の自慢となっている。今後ますます自分の学校に誇りを持ち、みんなでよりよい西小を創るという意識を高めていきたい。